

堅志学通信 令和3年度 第5号

※堅志学とは三原高校における「総合的な探究の時間」の呼称です。

三原高校^{けんしがく}の堅志学では、令和3年度「みはら2030プロジェクト」に所属する生徒12名が、情報ルールを活用した地域の未来分析を行いました（SchoolLife③を参照）。

そのまとめとして、東京都の品川女子学院の2年生の生徒さんたちとオンラインで交流・発表会を行いました。

「広域連携交流事業」とは総務省の事業の一つで、令和3年度に三原市の取組みとして採択されたプログラムです。ICTを活用して遠隔地間交流の促進を目指すプロジェクトとして、教育・観光・健康の3つの分野で、交流の促進を目指して行われました。

授業の風景や生徒の学びの様子



初めて顔を合わせた先方の生徒さんたちと自己紹介や互いの地域について交流しました。

アイスブレイクの様子

東京なら学校の周りにたくさんお店があるよね。羨ましいな。

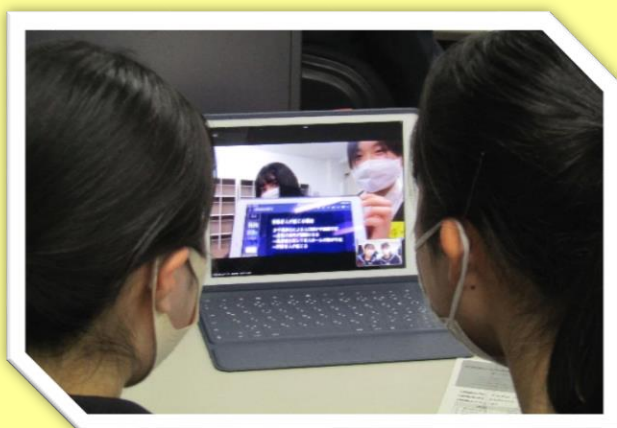
本校生徒

駅にはあるけど、学校の周りには遊ぶところはあまりないんだ。

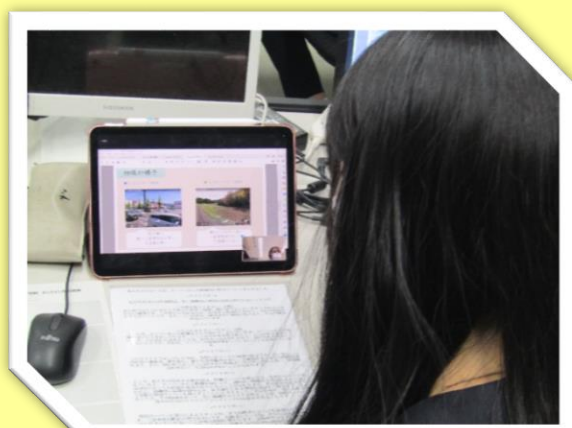
先方生徒

駅で買い物をするんだ。私たちの放課後の過ごし方とは違うね。

三原にもおいしい食べ物やきれいな海があるんだよね。コロナが収まったら行ってみたいな。



防災や医療福祉など、生徒が目じた分野やデータごとにグループを作り、三原市の未来予想と課題解決のアイデアについて発表し、意見を交換しました。



本授業は連携先の品川女子学院様、株式会社福山コンサルタント様、三原市経営企画様など関係各位の御支援・御協力の下に実施しました。